５年　国語科学習指導案

授業者　大阪市立海老江西小学校　草野　裕子
大阪市立南住吉小学校　　河野　悠馬

１　日　　時　　令和８年 11 月 10 日（火）第６校時（14：00～14：45）

２　学年・組　　第５学年い組（海老江西）（在籍 27 名）、第５学年４組（南住吉）（在籍 35 名）

３　単 元 名　　「和の文化を受けつぐ」ことについて考えよう
（中山圭子「和の文化を受けつぐ－和菓子をさぐる－」東京書籍５年）

４　単元目標

(1)　情報と情報との関連付けの仕方について理解し、使うことができる。

〔知識及び技能〕(2)イ

(2)　「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、本文とインタビュー記事を重ね合わせて内容を捉えたりすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

(3)　「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ

(4)　言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

５　単元間の関連と系統

前単元（４年 10 月）	本単元（５年 11 月）	次単元（６年 10 月）
学習材 「くらしの中の和と洋」 自分の考える和室と洋室のよさについて、書かれていることの要約を用いて紹介する。	学習材 「和の文化を受けつぐ ―和菓子をさぐる」 本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、「和の文化を受けつぐ」ことについて考えを伝え合う。	学習材 「『永遠のごみ』プラスチック」 複数の情報を関係付けながら読み、自分の考えをまとめる。

６　単元で取り上げる言語活動

本単元では、「『和の文化を受けつぐ』ことについての考えを伝え合おう」という言語活動を設定する。これは、本文とインタビュー記事「和菓子職人ビル・リオングレローさんの思い」を重ね合わせて読んで、理解したことを基に、「和の文化を受けつぐ」とはどういうことなのかについて自身の考えをまとめ、級友と伝え合う活動である。

この言語活動を行うためには、文章の構成や内容を捉え、筆者が「和の文化を受けつぐ」ことについてどのように考えているのかを理解しておく必要がある。その上で、本文と記事が共通して述べていることや、記事が本文の内容を詳しく述べているところなどに着目し、二つの文章の情報を対応させて読む。重ねて読むことで本文だけでは分からなかったことや、より詳しく分かったことを捉え、それらを根拠として「和の文化を受けつぐ」ことについての自分の考えをまとめ、伝え合うことから、本単元の目標にふさわしい言語活動であると考えた。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(１)ウ・カ）

7　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○情報と情報との関連付けの仕方について理解し、使っている。 ((2)イ)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、本文とインタビュー記事を重ね合わせて内容を捉えたりしている。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 (C(1)カ)	○進んで本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、学習の見通しをもって、「和の文化を受けつぐ」ことについて自分の考えを伝え合おうとしている。

8　指導にあたって

【学習者観】

本単元における付けたい力を育むために、学習者は次のような学習を積み重ねてきている。

５月「インターネットは冒険だ」では、文章全体の構成を捉えながら筆者の考えを読み取る学習を行った。「序論」「本論」「結論」の役割に着目しながら内容を整理し、本論ではどのような事例や理由が挙げられているのかを確かめることで、筆者の主張を理解してきた。また、文章全体の構成を考え、それぞれの段落やまとまりにどのようなことが書かれているかを整理しながら、中心となる語句や文に着目して筆者の伝えたいことを要旨にまとめることができた。

７月「新聞記事を読み比べよう」では、同じ出来事を扱った二つの記事を比べながら、それぞれの書き手が何を伝えようとしているのかを考えた。見出しやリード文、本文、写真やキャプションに着目して読むことで、同じ出来事であっても、取り上げる内容や伝え方によって読者に与える印象が変わることに気付き、記事の内容を比べながら書き手の意図を考えることができた。

このように、学習者は文章の構成や中心となる語句に着目して要旨を捉えたり、複数の情報を結び付けながら書き手の意図を考えたりすることができるようになってきている。しかし、複数の文章を重ねて読み、共通して述べられていることや、一方の文章で詳しく述べられていることを関連付けながら捉え、内容の理解を深めるような学習経験は初めてである。

【単元観】

本単元は、説明的文章「和の文化を受けつぐ―和菓子をさぐる」を通して、和菓子が長い歴史の中でさまざまな文化の影響を受け、多くの人々に支えられながら受け継がれてきたことを読み取るとともに、「和の文化を受けつぐ」とはどのような見方や考え方をもつことなのかについて、自分の考えを形成することをねらいとしている。

本学習材は、まんじゅうやせんべいなど、学習者にとって身近な和菓子を題材としている。文章構成は序論・本論・結論が明確で、本論では「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の三つの観点から、和菓子の世界の奥深さが示されている。和菓子の歴史を土台に、年中行事や茶道との関わり、それを支えてきた人々について捉えることで、和菓子がどのように受け継がれてきたのかを理解できる。結論では、和菓子だけでなく、筆やろうそく、和紙、織物などの和の文化にも目を向け、歴史や文化との関わり、それらを支える人々について考えることで、日本の文化を受け継いでいくことにつなげている。このように、和菓子を通して「和の文化を受けつぐ」ことについて考えることができる学習材である。

また、「まず」「次に」「このように」「また」「一方」などの接続語が用いられ、順序、並列、対比の関係を捉えながら読み進めることができる。写真や年表も本文と対応しており、結び付けて読むことで、和菓子の歴史や年中行事・茶道との関わり、文化を支える人々について具体的に捉えることができる。

さらに、インタビュー記事「和菓子職人ビル・リオングレローさんの思い」では、グアム出身のビル・リオングレローさんが、さまざまな苦労や努力を重ねながら、日本の文化を受け継ぐ姿が描かれている。長年の経験を積んだ今も「毎日が修行」として学び続ける姿勢や、伝統を受け継ぎながら新しい和菓子を生み出す工夫（創意）、お客さんを喜ばせたいという作り手としての願い（夢）が語られている。

本文とインタビュー記事を重ね合わせて読むことで、本文で述べられている「技術を受けつぐ」「必要な感性を養う」ことを、職人の具体的な行動や思いと結び付けて捉えることができる。さらに職人の夢や創意を具体的に知ることで、「和の文化を受けつぐ」ことについて、より深く考えることができる。

以上のことから、本単元は、複数の情報を関連付けて読み、理解したことを基に自分の考えをまとめる力を育てるのに適した学習材である。

【指導観】

第一次の第１時では、身近な和の文化について知っていることを交流し、「和の文化は、未来に残ると思いますか」と問うことで、「受けつぐ」という言葉に関心をもたせる。また、言葉の力「情報を重ね合わせて読む」を確認し、本単元で身に付ける力を意識できるようにする。本文の範読後には、「和の文化を受けつぐ」ことについて問い、初発の考えと根拠となる段落をノートに記入する。また、「自分の学び」「学び方」「交流」の三つの振り返りの観点を共有し、各時間の学習に応じて、分かったことや学び方がどのように役立ったか、級友との交流による気付きなどを振り返ることができるようにする。さらに、学級では、和の文化に関する本を用意し、いつでも手に取って読むことができる環境を整える。単元を通して、それらの本やインターネットなどで見付けた和の文化を掲示して共有することで、和菓子以外の和の文化にも関心を広げられるようにする。

第二次の第２時では、前時に書いた考えを根拠となる段落とともに交流する。本文の内容を確かめながら、文章構成や本論で取り上げられている「歴史」「行事・文化」「支える人」の三つの観点を捉えられるようにする。

第３時では、筆者が「和菓子の世界はおくが深い。」と述べる理由を、本論の内容と結び付けて確かめる。本論の大事な言葉と結論を基に要旨をまとめ、交流することで、筆者の考えを捉えられるようにする。その後、ビル・リオングレローさんのインタビュー記事の題名を示し、本文のどの観点と関わる記事なのかを問う。「和菓子職人」という言葉から、本文の「支える人」との関わりに気付かせ、実際の職人の思いを知ることで、本文の内容をより詳しく捉えられそうだという見通しをもたせる。

第４時では、まず、前時に捉えた本文と記事との関わりを振り返り、インタビュー記事を読む。次に、教科書の「言葉の力」を再度確認し、本文と記事が共通して述べていることを捉える。その上で、記事が本文のどの内容を詳しく述べているのかを確かめ、関連する箇所に線を引いたり、気付いたことを書き留めたりする。そして、本文と記事を重ね合わせて読む一人学びに取り組み、本文と記事を行き来しながら、関連する箇所に線を引いたり、対応を示す印をつけたりして整理できるようにする。また、必要に応じて級友と交流することで、自分の考えを確かめたり見直したりできるようにする。

本時の第５時では、記事を音読した後、一人学びで着目した箇所や、本文と記事を重ね合わせて分かったことをグループで確かめ合う。そして、本文と記事のどこを重ね合わせて読み、何が分かったのかを全体で交流する。その際、本文の言葉と記事の叙述を板書に示し、記事の着目した箇所に線を引きながら、重ね合わせて分かったことを整理することで、本文と記事の関わりを捉えられるようにする。また、聞き手には新たな気付きをメモしたり、自分の読みと比べたりしながら参加できるようにする。交流後には、本文と記事を重ね合わせて分かったことを、振り返りの観点「自分の学び」として一人ひとりが書く。

第三次の第６時では、前時までに理解したことを生かし、「和の文化を受けつぐ」ことについて自分の考えをまとめる。単元の初めの考えを読み返すとともに、ルーブリックを手がかりに、本文や記事から分かったことを根拠として、自分の考えとその理由を書けるようにする。交流では、級友の考えや根拠を自分のものと比べ、新たに気付いたことや納得したことをメモすることで、自分の考えを広げられるようにする。単元の終わりには、これまでの学習を振り返り、身に付いた読み方を今後の学習や生活に生かせる場面について考える。

９　指導と評価の計画（全６時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○題名にある和の文化について知っていることを交流する。 ○「言葉の力」を確かめ、学習の見通しをもつ。 ○範読を聞き、初発の感想を書く。	・知っている和の文化について交流させることで、学習材に興味・関心をもたせる。 ・共通して述べているところ、くわしく述べているところ、違っているところに目を向けて学習することをおさえる。 ・言語活動のルーブリックを提示し、単元の終末に目指す姿を学習者と共有することで、学習の見通しをもてるようにする。 ・「和の文化を受けつぐ」ことについての初発の考えを理由や根拠となる段落とともに書かせることで、次時の学習につなげる。	
二	2	○文章全体の構成を捉え、本論で取り上げている内容を整理する。	・前時に書いた感想を根拠となる段落とともに交流し、本文の内容を確かめることで、本論が「歴史」「行事・文化」「支える人」の三つの観点に整理できるようにする。	［知識・技能］ 全文ワークシート・発言・ノート ・説明文全体の構成を捉え、文章から「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の三つの観点を見付けて整理しているかの確認
	3	○筆者の考えを捉え、大事な言葉を使って要旨にまとめる。	・本論で取り上げられている三つのまとまりと結論の言葉を対応させて確かめることで、筆者が伝えたいことを捉え、大事な言葉を使って要旨にまとめられるようにする。 ・インタビュー記事の題名から、本文の「支える人」との関わりに気付かせることで、次時の重ね合わせて読む学習へとつなげる。	［知識・技能］ ノート ・本論の具体的な内容と結論に示された筆者の考えを関連付け、大事な言葉を使って、要旨にまとめているかの確認
	4	○記事の内容を捉え、本文と共通する内容や、詳しく述べている箇所を見付ける。	・教科書の「言葉の力」を再確認し、共通して述べていることや記事で詳しく述べられていることなどに着目しながら読むという、一人学びの進め方を共有する。	

	5 本 時	○本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、分かったことを捉える。	・本文と記事を行き来しながら、関連すると考えた箇所に線を引いたり、同じ印を付けたりし、気付いたことを短く書き留められるようにする。 ・「メモメモタイム」を設け、級友と確かめ合うことで、自分の読みを確かめたり、見直したりできるようにする。 ・本文と記事のどこを重ねたのかを問うことで、根拠となる叙述を全員が確かめられるようにする。 ・考えをまとめることが難しい学習者には、着目した本文と記事を一緒に確かめることを通して考えを整理したり、書き出しを示したりして支援する。	［思考・判断・表現①］ 発言・ワークシート・ノート ・本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、本文だけでは分からなかったことや、より分かったことを捉えているかの確認 ［思考・判断・表現②］ 発言・ノート ・級友の考えに触れ、自分の考えを広げているかの確認
三	6	○「和の文化を受けつぐ」ことについての自分の考えをまとめ、伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	・単元の初めに書いた考えと前時のまとめを読み返したり、ルーブリックを確認したりすることで、自分の考えをまとめられるようにする。 ・級友の考えを自分の考えと比べ、新たに気付いたことや納得したことをメモすることで、自分の考えを広げられるようにする。 ・単元の初めの自分の考えやこれまでの学習を振り返り、今後に生かせそうな場面について考えられるようにする。	［思考・判断・表現②］ 発言・ノート ・級友の考えに触れ、自分の考えを広げているかの確認 ［主体的に学習に取り組む態度］ ノート ・進んで本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、自分の学びを振り返りながら、身に付けた力を今後の学習や生活に生かそうとしているかの確認

［知識・技能］全文ワークシート・発言・ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・説明文全体の構成（序論・本論・結論）を捉えるとともに、本論から「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」の３つのまとまりを見付け、全文ワークシートやノートに整理している。

・本論で述べられている「歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人」についての内容と、結論に示された筆者の考えを関連付け、要旨にまとめている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・各段落の接続語（「まず」「次に」「このように」など）や写真・年表に着目させることで、本文のどこに何が書かれているかを確認できるようにする。

・提示した要旨の型のうち、まとめやすい型（例：「和の文化は、○○や□□、△△を考えることで受けつぐことができます。」など）を指定し、大事な言葉を選んで書くよう個別に支援する。

［思考・判断・表現①］発言・ワークシート・ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、共通して述べていることや、記事が本文の内容を詳しく述べているところなどを捉え、関連する叙述への線引きやメモで示すことができている。

・本文と記事の関連する情報を基に、本文だけでは分からなかったことや、より詳しく分かったことをまとめることができている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・必要に応じて、本文の読む範囲を絞り、共通する内容や詳しく述べている内容を見付け、線引きや短いメモで示せるようにする。

・本文と記事の線を引いた叙述や板書を一緒に確かめ、そこからどんなことが分かったのかを問いかける。

［思考・判断・表現②］発言・ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・級友の考えと自分の考えを比べ、新たに気付いたことや納得したことなどを伝えたり、メモに表したりすることで、自分の考えを広げている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・級友の考えと自分の考えを比べ、同じところや違うところに着目するよう促し、新たに気付いたことや、より詳しく考えられたことはないか問いかけることで、自分の考えを広げられるようにする。

［主体的に学習に取り組む態度］ノート

「おおむね満足できる」状況（B 評価）

・本文とインタビュー記事を重ね合わせて読む学習を振り返り、情報を結び付けて読むことで理解が深まったことや自分ができるようになったことを捉え、身に付いた力を今後の国語科の学習や日常生活に生かそうとしている。

「努力を要する」状況（C 評価）への手立て

・振り返りの観点や書き方の例を示すことで、自分の学びを振り返り、身に付いた力やその力を生かせる場面を考えられるようにする。

10　本時の学習

（1）本時の目標（5／6）

本文とインタビュー記事を重ね合わせて読み、本文だけでは分からなかったことや、より分かったことを捉えることができる。

（2）本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1　前時までの学びを振り返り、本時のめあてを確かめる。	・前時に線を引いた箇所やメモを振り返らせることで、一人学びで捉えた本文と記事との関わりを想起できるようにする。	
「和の文化を受けつぐ」ことについて考えるために、本文と記事を重ねて読もう。		
2　インタビュー記事を音読し、重ね合わせて読んで分かったことをグループで交流する。	・根拠となる叙述に線を引いたり、メモしたりしながら聞くように伝えることで、級友の考えと比べながら発表を聞くことができるようにする。 ・本文と記事のどこを重ねたのかを問うことで、根拠となる叙述を全員が確かめられるようにする。	

3　本文と記事を重ね合わせて読んで分かったことを全体で交流する。 4　本時の学習を振り返る。	・本文 13 段落の和菓子を作る職人など、板書を見て、より詳しく分かったことを捉えられるようにする。 ・めあてに沿って分かったことを、振り返りの観点「自分の学び」として書くことができるようにする。 ・考えをまとめることが難しい学習者には、着目した本文と記事の叙述を一緒に確かめることを通して考えを整理したり、書き出しを示したりして支援する。	◆［思考・判断・表現①］ 発言・ワークシート・ノート ・本文とインタビュー記事の情報を重ね合わせて読み、本文だけでは分からなかったことや、より詳しく分かったことを捉えているかの確認

11　板書計画

